

科目名 Course Name	生活支援技術 I Independent Living Skill I			ナンバリング No.	J1-007		
年次	1年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	久保 由佳						
連絡方法	C-Learning で対応。または福祉棟 2F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程必修)						
関連 DP	DP1, DP2						
授業の概要と 到達目標	<p>生活支援技術は、科学的根拠に裏付けられた一般原則・原理を体系化したものである。生活支援技術 I では、利用者の尊厳保持、その人らしい生活の尊重、自立を目指した生活支援の意義について理解する。また、ICFの視点に基づき、自立に向けた居住環境、安全で心地よい生活の場の支援について学習する。</p> <p>①さまざまな生活の場があることを確認し、生活支援の意義について説明できるようにする。 ②居住環境整備に必要な視点を挙げ、望ましい生活空間について説明できるようにする。 ③ボディメカニクスの原理について説明でき、介助時、最大限に活用できるようにする。 ④利用者に配慮しながら、ベッドメイキングおよびシーツ・包布交換を行うことができるようにする。</p>						
授業の方法	第1～6回目は、生活や居住環境に関する講義を行う。第7～12回目は、介護実習室にて演習を行う。特に第8～11回目は実技演習のため、グループでの演習が中心となる。第13～15回目は、居住環境に関する講義とグループワークを行う。実技に関しては授業時間以外の空き時間等を使い自己練習に励み、技術の向上に努めること。						
学習成果	L01	利用者の状態に応じた、安全で快適な居住環境を整備することができる。					
	L02	生活および生活支援の概念をもとに、介護の目的を説明することができる。					
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック	実技演習後は振り返りの時間を設け、補足説明を加えながらフィードバックする。小テスト(実技試験)の結果は、評価点やコメントを記入した評価表を返却する。返却時は解説も行う。						
教科書/ 参考図書	①最新・介護福祉士養成講座 第6巻「生活支援技術 I」中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル						
履修上の留意点 やルール等	●演習時は身だしなみを整えること。●自己練習をし、技術の向上に努めること。なお、授業時間以外の介護実習室使用に関しては別途指示する。●教材以外のものは机上に置かない。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回45分とする。						
担当教員の実務 経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	S 評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③課題の提出期限を守っている。④演習時は身だしなみを整え、積極的に取り組んでいる。		20		
レポート/作品	S 評価のレポートは、演習を振り返り、学びや気づき等、自分の考えが具体的に記述できていること。	20			
発表					
小テスト	第12回目にベッドメイキングの実技試験を行う。S 評価は、くずれにくく、美しいベッドに整えられていること。	20			
試験	生活支援の意義や居住環境整備に関する問題を出题する。		40		
その他					
合計		40	60		

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・介護実習室の使い方・演習時の注意など)
	事前・事後学習	授業用のノートやファイル、演習時の服装(実習服)を準備する。
2	授業内容	生活の定義と全体像
	事前・事後学習	テキストP2～12を読む。授業での内容を整理し、生活とは何かをノートにまとめる。
3	授業内容	生活と生活者の理解
	事前・事後学習	家にいると安心する、落ち着く、くつろげるのはなぜか、考えてノートに書き出す。専門用語と言葉の意味を覚える。
4	授業内容	生活環境・資源
	事前・事後学習	テキストP54～57を読む。配布資料を読み返す。室内環境の調整方法やポイントを自分の生活に取り入れ、実践する。
5	授業内容	居住環境整備の意義と目的、生活空間と介護
	事前・事後学習	テキストP46～53を読み、生活空間を整備する際の留意点をノートにまとめる。
6	授業内容	安全で心地よい生活の場づくり① 寝床の意義と機能 生活支援の考え方とアセスメント
	事前・事後学習	自分の生活を振り返り、敷布団とベッドの長所・短所をノートにまとめる。
7	授業内容	安全で心地よい生活の場づくり② 多様な寝床の理解(ベッドの使用方法等)
	事前・事後学習	居住環境に関連した福祉用具・機器について調べ、ノートにまとめる。
8	授業内容	安全で心地よい生活の場づくり③ ベッドメイキング [演習] 【レポート1:演習の振り返り、提出は第12回目の授業時】
	事前・事後学習	生活支援技術マニュアル P2～11 を読み、手順や根拠、留意点をノートにまとめる。練習用チェックリストを確認しながら、実技の反復練習を行う。レポート1を作成する。
9	授業内容	安全で心地よい生活の場づくり④ ベッドメイキング、シーツ交換 [演習]
	事前・事後学習	生活支援技術マニュアル P12～18 を読み、手順や根拠、留意点をノートにまとめる。練習用チェックリストを確認しながら、実技の反復練習を行う。レポート1を作成する。
10	授業内容	安全で心地よい生活の場づくり⑤ シーツ交換、包布の扱い方 [演習]
	事前・事後学習	生活支援技術マニュアル P2～18 を読み、手順や根拠、留意点をノートにまとめる。練習用チェックリストを確認しながら、実技の反復練習を行う。レポート1を作成する。
11	授業内容	居住環境整備に関する生活支援技術のまとめ(環境整備を含む) [演習]
	事前・事後学習	実技試験に向けて、練習用チェックリストを確認しながら、3回以上、実技を行う。実施後はチェックリストに練習日、自己評価を記入する。
12	授業内容	居住環境整備に関する生活支援技術の確認・振り返り 小テスト [実技試験]
	事前・事後学習	実技の自己評価表を記入する。実技試験を振り返り、不十分だった点やできなかった点を中心に、生活支援技術マニュアルを読み返す。
13	授業内容	利用者に応じた寝床整備の応用(エアマットの使用等含む) 施設等での集住の場合の工夫・留意点
	事前・事後学習	高齢者施設や障害者施設の設備や居住環境を調べ、可能であれば施設見学をする。
14	授業内容	居住環境のアセスメント① 快適な室内環境 [演習] 【レポート2:演習の振り返り、提出は次回授業時】
	事前・事後学習	テキストP57～61を読む。配布資料を読み返す。快適な室内環境となっているか、自分の生活を見直す。レポート2を作成する。
15	授業内容	居住環境のアセスメント② まとめ 他職種の役割と協働、施設空間(建物)の構成
	事前・事後学習	テキスト P44・45、P73～80を読む。実習までにベッドメイキングとシーツ交換が的確にできるよう、実技の反復練習を行う。